

OSFだより

第95号 2009(H21)年4月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@codan.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舎の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

おとめ ぞう 乙女の像

かいちょう おかもと ただし
会長 岡本 正

昨年から財団事務所に、若い女性の裸像が置いてある。このブロンズ彫刻は、財団のOBで昨年東京芸大で芸術学博士を取得した陳漢さんの作品だ。この作品は埼玉県主催の展覧会で特賞に入選した名作だ。

陳漢さんは福建省の出身で、この4月から杭州にある芸術大学の彫刻の先生に就任する。上野の芸大で彫刻で博士号を取ったのは、留学生としては初めてであり、日本人でも数少ないという。

この乙女(年の若い娘のこと)の像の名称は陳漢さんは「長江」と名づけているし、陳漢さんの先生の市川在住の洋画家中山先生は「回想」と命名されている。私はまた別に財団としてよい名をつけたい。皆さん考えてみてください。

私は陳漢さんに会うまでは彫刻には特別に関心も興味もなかった。陳漢さんから話を聞き、又彼の個展に何回か足を運ぶうちに、次第に彫刻の美に啓発された。

今、陳漢さんは日中両国の彫刻界での第一歩は確立している。今後更なる飛躍を期待する。がんばってください。

近代日本の彫刻界の第一人者は朝倉文夫だ。上野公園と日暮里の中間あたりに、朝倉邸があり、美術館として公開されている。

昭和初期の代表的な日本家屋であり、建築に興味のある人には一見の価値がある。

なお、手近な所では、慶應(三田)の図書館前の小庭に、

朝倉作の青年の立像が立っている。これは慶應在学中に第二次世界大戦にかり出されて戦死した学徒兵の慰霊碑だ。

碑文に曰く、「丘の上の平和なる日々、行きて帰らぬ友を思う」

私はある晩秋の日の午後、一人一人いないこの静かな小庭に立って、この朝倉さんの像と向き合い涙ぐんだことがある。なぜなら、この戦死者の方々はすべて私と同世代の人だから。特に感銘が深い像だ。

第二次大戦関係の記念像は世界に多くある。例えばアメリカのワシントンのアーリントン墓地にある硫黄島の日米決戦の記念像だ。これはアメリカ海兵隊の栄誉のためであるが、日本人が見ても感銘深い。

最近ベルリンの中心にユダヤ人の慰霊碑ができたが、写真で見ると壮大なスケールで圧倒される。

いずれにせよ、「百聞は一見にしかず」の言葉どおり、彫刻の与える印象は大きい。反戦平和の碑としてはAクラス。

OSFのOBの中には、彫刻だけではなく、絵画・デザイン・版画と多方面にわたる芸術家が次々と出てきた。うれしい限りだ。今日はデザイン専攻の李勇さんが帰国の挨拶に来てくれた。今度杭州の大学の先生になる。別れは寂しいが、今はただ李勇さんの成功を祈るのみだ。



エルデム（奨学生OB） 中国（内モンゴル）

千葉大学教育学部 卒業

私の夢

私は夢がある。故郷の緑色を戻したい。大自然の中で生まれた私にとって、今の自然環境の悪化を肌で感じていた。今、子供のころの故郷を思い出すと、自分でも信じられないぐらいの綺麗な自然の環境だった。

私が5歳ぐらいの時、家族で湖の近くに住んでいた。湖はとても大きくて、周りは緑色の大地だった。春になったら草原であっちこっちに泉が沸き、花が咲き、羊、ヤギ、牛、馬など家畜の声が聞こえ賑やかだった。夏は大雨が多く、湖が氾濫する危険があるので、父は夜も寝ずに警戒していた。その時父は湖から魚を取り、家族で美味しく食べていたことも記憶としてはっきり覚えている。その時両親の一番心配していたことは湖だった。子供たちにとって湖は危険な存在だった。冬の日だった。私は兄と凍った湖の上で遊んでいた時、突然割れた氷の穴にすべり落ちた。幸い兄が私を助けてくれ、無事に家に戻った。そのことから、両親は危険な湖から離れて、安全なところを探して、新たな村に生活するようになった。

新しい村は大きな草原だった。草原の奥に2メートルぐらいの高さの草に覆われて、小さな川が流れていた。



家族は安全な場所に移動してきたと喜んでいましたが、新たな危険に脅かされるようになった。その地域は狼がたくさんいるところである。羊やヤギ、牛などは狼に食べられて、村の人々もとても不安だった。一番心配したのは子供たちが学校に通う道だった。学校に通う時、狼に襲われないように、みんな一緒に学校に通うようになった。そのとき村の人々は草原のせいで狼が増えていると思い、秋になったら草に火をつけて、燃やしていた。このように人と大自然の戦いは続いていた。小学校4年のとき、父の転職のため、家族は小さな町に住むようになった。

私は大学を卒業して、久しぶりに子供の時の草原を回った。目に移るのは畑、砂漠。子供のときの大きな湖は小さな池になって、回りは銀色の砂だった。昔の立派な大地は静かになって、人の声や砂塵嵐の音だけ聞こえるようになった。人々は大自然に勝ち、幸せに暮らすようになったが、大自然の報復、砂塵嵐や水不足の危険に迫られている。人々が本当の幸せを持てるのは、大自然とともに生きて、大自然を愛して、保護することである。子供の時の故郷に帰りたい。そのような大自然の物語を後代に残したい。これが私の夢である。

金 鉄柱（奨学生OB） 中国（北京市）

千葉工業大学社会システム科 卒業

私の夢

中学校3年生の頃に、有名な作家が学校にきて講演をしたことがある。そのときから私は自分の夢を定めたのである。

私は作家の講演を通し、今でも日本で大活躍している孫正義を知ることができた。孫さんは自分の夢を実現するため、19歳の頃に「20代で名乗りを上げ、30代で軍資金を最低で1,000億円貯め、40代でひと勝負し、50代で事業を完成させ、60代で事業を後継者に引き継ぐ」という人生50年計画を立てたのである。

私も孫さんのような大活躍できる人間になりたいと思い、計画を立て自分なりに頑張った。今も覚えているけれど、世の中の動きを把握する必要があると思い、テレビで放送する「世界経済フォーラム(ダボス会議)」を見ながら、メモを取ったりした。

孫さんから影響を受けた私は、勉強をはじめ、サッカー試合、陸上競技などでも必死に頑張った。このように、私は常に1位を意識しながら頑張ったのである。

しかし、世の中「上には上があり、下には下がある」。いくら頑張っても目標を達成できないときがあった。そのときはよく落ち込んだりした。

ある日、私は岡本会長が書いた「オンリーワン」という文章を読んだ。私はこの文章を読んで、いろいろ



なことを思い出した。昔の私は、いつもナンバーワンになるために必死に頑張ったのである。しかしその結果、心が疲れ、自分自身を失うことになった。私は、「オンリーワン」の文章からやっと気づいた。人はナンバーワンになるのではなく、オンリーワンになるべきだ。ということ。自分しかできないこと、自分がやるべきことが必ずあると考えるようになった。

私はもう一度自分の夢を探す旅に出た。自分がやりたいことは何か、自分の強みは何か、人生で一番大事なことは何かを探す旅に出たのである。

最近ニュースにもよく出てくるが、日中韓の経済連携が盛んになっていることで、「東アジア共同体」という構想が提唱されている。しかし、ヨーロッパではすでに欧州連合(EU)が設立され、欧州通貨としてユーロもでき、加盟国間の繋がりが深まっているのである。私は近い将来、東アジアとASEAN、さらにその他の国、地域という広い範囲での「東アジア共同体」が形成されると思う。

私は「東アジア共同体」という機構を舞台にし、東アジアの発展と繁栄のために、自分なりに頑張りたいと思う。

李 美慧 (奨学生)

台湾 (台北市)

千葉大学 自然科学人間環境デザイン専攻

留学生活を経験して自分で成長したと思えること



日本に来て5年目になりました。5年の間に自分は大きく成長してきました。留学中にいろいろな経験をして、中でもアルバイトの経験が自分にとって一番成長したと思えます。

当時来たときには、物価が高いし、また実家の経済状況だと援助してもらえぬ余裕もないので、全て自分の力で乗り越えていかなければなりません。ですから、日本に来た後、アルバイトを探し求める辛い過程に出会った人々に述べたいです。

来日半年後は幸運に恵まれ、博士課程に合格することができました。偶然ながら、ずっと受からなかったアルバイトも決まり、パン工場で仕事をするようになりました。毎日1時間位自転車で通勤し、朝にみんなが新鮮なパンを食べられるように、夜に黙ってパンを作ります。私の主な役割はパンの品質のため、必ず一個ずつ丁寧に綺麗に拭いてチェックすること。初めて日本でアルバイトをやって、どんなに安いパンでも品質の管理をしっかりする日本式管理を実感しました。今思い出したら、冬の夜は寒くて厳しかったが、心に安らぎを感じて暖かか

ったです。その後、焼き鳥店、コンビニエンスストアでもアルバイトをしました。

現在は自分の専攻である建築に関するアルバイトを3年間続けています。いままでのアルバイトの経験が直接自分の専攻にプラスし、成長するのは本当にありがたいことです。

アルバイトをしている会社は建築設計、施工まで幅広い大手建築会社です。従業員数は約8千人くらいです。自分の国にはこんな規模の会社はないので、はじめ面接の時にはびっくりしました。私は学校関連の模型作り部門の担当です。さすが世界有数有名の大手会社、普通一般設計事務所は模型作りだけを重視しますが、ここでは図面をみる、材料を知る、作業法、上下関係まで一から教えてくれました。作製の技術だけでなく、基本の建築知識、管理までも新たに考えさせられました。将来の自分が大きく変わると思います。一方、会社の社員はほぼ毎日終電までやっています。それも一つの日本の職場文化だと思います。もちろんバイトもその状態がよく見えます。とにかく留学生は辛いけど心は充実しています。

金 珉三 (会館生)

韓国 (高陽市)

神田外語大学 外国語学部

国際コミュニケーション学科

専攻科目の選考理由と将来の目標について



私が神田外語大学に入ろうとした理由は、幅広い外国語を学びたかったからである。韓国にいる5年前から日本語に興味がわき、独学で勉強しながら、母語にはない日本語ならではの魅力を感じることができたのである。そのうち、やはり英語の必要性に気づいて、日本語を学びながら基礎から英語を学ぶことができる神田外語大学の国際コミュニケーション学科に入学することになった。

神田外語大学の学部留学生は皆一つの学科しか入れない点があったため、学科を選んだ理由は特になのだが、昔から人と人間のコミュニケーションの能力が乏しかった私としては、今の専攻にぴったりだと思う。

外国語の能力だけでは、人とのコミュニケーションが上手くできない。いかに日本語が得意であっても、それを上手く活かすためには、それ以上のコミュニケーションの能力を必要とする。外国語を学習していくのに加え、コミュニケーション能力が重なるのであれば、これ以上すばらしいものはないと思うのである。

私の将来の夢は、今勉強している日本語と英語、そしてコミュニケーション能力を活かしてできる仕事をしたいと思っている。希望としては、まだ具体的にはっきり決めていないのだが、学校で学べる心理学や人間の精神世界などの学問を勉強して、精神病や様々なストレスで苦しんでいる人たちを、コミュニケーションを通して治療したりする仕事をしたいと考えている。それで卒業後大学院に進学して専門的な知識を習得していくという計画も頭の中に入れてある。

今現在は、もっと幅広い日本語と英語、そしてコミュニケーション能力を確実に学習していくのが大事なので、将来の目標は上記に述べた程度である。だが、毎日具体的に何をどのようにすれば自分の目標に近づけるのか、もっと具体的に考えようとしている状態である。

そして、何よりも人生の一番大きな目標は、明るく幸せに生きていくことだと思っているので、そのために努力をしなければならないと、いつも胸に刻んでいる。

トピックスTopics!

◎会館生 上海へ！！

2月24日、会館生11名が3泊4日の上海旅行を楽しんだ。発展著しい大都会に、若者達はすっかりエキサイト！
思い出深い卒業旅行になりましたネ。



赤ちゃん誕生

- ◎3月2日 ラジブさん
ネパール(家族宿舍H19) 長男誕生
- ◎3月3日 アミナさん
中国ウイグル(会館生H14) 長女誕生
可愛い写真を送ってくれた。
情報によると今年はどうやらベビーラッシュの年になりそうだ。楽しみですネ

◎さよならパーティ

3月6日に奨学生、18日に会館生のそれぞれのお別れ会があった。記念品のアルバムで、一年を振り返り感無量。OSFを巣立つ人、送る人、どちらも寂しいけれど夜遅くまで別れを惜んでいた。
友情がいつまでも続くことを誓いながら……

OB 消息

◎卒業式

3月は各大学とも卒業式のシーズンだ。今年も財団評議員の佐川さんのお世話で女子学生たちは着物やはかまを着せていただいた。みんなうれしくて大はしゃぎ！！写真をとりにくっていた。長年の努力が報われて本当にオメデトー！！



◎4月10日

OBの王維婷さん(会館生H19、中国)が博士課程を卒業して語学研修のためカナダへ旅立った。昨年は名実共にボスとして、会館を上手にまとめてくれた。カナダでの更なる成果を期待しましょう。

◎4月8日 中国の王浩洋さん(奨学生H11)が来団してくれた。現在は、東京と上海とのビジネスで張り切っている。

◎4月8日 OBの秦穎潔さん(奨学生H15、中国)が帰国の挨拶に訪ねてくれた。故郷の承德で大学の先生に就任するそうだ。これからの活躍を心より期待したい。

◎4月10日 OBの李勇さん(奨学生H15、中国)が博士課程を卒業し、帰国の挨拶に来団した。杭州で大学の先生として勤務することになる。日本での長年の体験と苦勞が立派に実ることを祈っている。

◎4月14日 OBの陳リョウさん(奨学生H9、中国)が6年ぶりに訪ねてくれた。現在オーストラリアで2児のママになり、仕事に育児にがんばっている。今回は友人と観光目的で来日した。
相変わらず元気だ。
夜遅くまで昔話に花が咲いた。



OSF 2009 年度前期行事予定

5月13日	会館生、緑町宿舍例会
5月16日, 17日	奨学生一泊旅行
6月10日	役員会
6月12日	奨学生例会
6月17日	会館生、緑町宿舍例会

7月5日	会館OB会(バーベキュー)
7月14日	奨学生例会
8月5, 6, 7日	広島原爆慰霊祭参加
8月上旬	鴨川海水浴
9月10日	奨学生例会
9月16日	会館生、緑町宿舍例会